

越川 慶一・牧田 俊之  
 首藤 孝治・松井 雅宏

# 改革フォーラム



牧田 俊之議員

## 【代表質問】

スポーツ振興、財政の健全性、産業集積、人口減少抑制、住宅整備計画、駅前広場、中小企業活性化、医療的ケア児、児童相談所分室、手術支援ロボット、樽前山7合目ヒュッテ、教育行政などの23項目について質疑をいたしました。

## 【スポーツ振興】

スポーツ都市を宣言している苦小牧市の基本方針にスポーツに対する言及がなかったことの指摘に対して、スポーツを通じた交流人口の増加、大学との連携、スポーツ推進計画に基づいた取り組みを進めると答弁がありました。

## 【財政の健全性】

膨らみ続ける地方債、中でも4割を占める臨時財政対策債に頼らない財政計画の組み立てについて考え方を質しました。本来、地方交付税として総額確保されるべきものですが、財源不足となることから、発行可能額全額を借入しているのが現状です。

## 【市営住宅整備計画について】

他市と比べて市営住宅管理戸数が苦小牧市は非常に多く、20年後に5千戸の整備計画を達成したとしても、高いレベルであり計画の見直しについて確認したところ、基本的に5年おきに見直しを行い情勢変化、事業進捗状況により適宜見直すと答弁がありました。

## 【駅前広場】

駅前広場の復活について、イルミネーション事業がまちなかの賑わい「活性化」に繋がることを期待したいが駐車場などの低未利用地が阻害していることを指摘し、公共交通の利用促進によるにぎわいの創出について確認しました。低未利用地についてはCAP事業「苦小牧まちなか再生総合プロジェクト」を推進し新たな土地利用に転用していただけるようにすると答弁がありました。

## 【樽前山7合目ヒュッテ】

突然の噴火に備え避難小屋の整備と繊維織物「ケプラー」による屋根補強について市の考え方を確認しました。ヒュッテのあり方について検討を進めています。緊急

避難施設として活用する場合は屋根補強の考えも含めて総合的に判断したいと答弁がありました。



首藤 孝治議員

## 【(仮称)市民ホール計画と総合体育館の複合について】

一般質問にて議論しました。苦小牧市の財政は今後の少子高齢化による人口減少により税収減が推測され、財政が逼迫する可能性があることを指摘し、公共施設の維持管理費用や事業工費の削減、老朽化した総合体育館の状況や中心市街地の活性化を考慮した場合に(仮称)市民ホール計画と総合体育館を併設し複合化することを本格的に検討する必要があることを質疑し、次世代に向けたまちづくりを進めていただくことを要望しました。



越川 慶一議員

## 【防災情報発信の充実を！】

震災時の市民への情報発信は、さらに充実を図る必要があると、さらに防災行政無線の設置を提案。市は「

屋外スピーカーの全市的な拡大の可能性を検討している」と答弁。

【国家戦略特区の申請を！】苦東地域での自動車の自動走行やドローン(無人航空機)の実証試験場所として特区申請を行い新たな企業誘致に繋げることを提案。市は「直ちに特区を検討する状況ではないが企業誘致のきっかけに繋がるよう情報収集に努める」と答弁。



松井 雅宏議員

## 【文教経済委員会】

平成30年4月にスタートした「苦小牧市中小企業振興計画」の取り組みを質した上で、中小・小規模事業者で構成している業種別の組合・協会などに向けた出前講座を実施しさらなる浸透と活用を図るべきと提案しました。また、市内中学校の肢体不自由学級が、来年度から東中学校1校の拠点校方式から、居住地域の学校へも通えるという選択方式を導入することについて評価した上で、導入趣旨を各校に徹底するように求めました。いずれも前向きな答弁を引き出しました。